緩和ケア内科　研修カリキュラム

【科の説明】

当院は、地域がん診療連携拠点病院であると共に、日本緩和医療学会の認定研修施設であり、緩和ケア内科は、緩和ケアチーム（がんサポートチーム）・緩和ケア外来の二つの診療活動の場を持ち、主に悪性腫瘍の患者・家族に対する緩和ケアの実践を通して臨床・教育・研究を行っています。研修医は、緩和ケア内科の医師の指導のもと、患者と家族の抱える苦痛のアセスメントを行い、他の診療科の医師や他職種とも協働しながら、苦痛に対してどのようにマネジメント（対処・支援）をするのかを学びます。

A.　一般目標

悪性腫瘍をはじめとする生命を脅かす疾患に罹患している患者・家族の QOL の向上のために緩和医療を実践することができる能力を身につける。

B.　行動目標

1. 患者の苦痛を全人的苦痛（total pain）として理解し、身体的だけでなく、心理的、社会的、霊的（spiritual）に把握することができる。
2. 病歴聴取（発症時期、発症様式、苦痛の部位、性質、程度、持続時間、推移、増悪・軽快因子など）、身体所見を適切にとることができる。
3. 痛みの定義についての述べることができ、痛みをはじめとする諸症状の成因や、そのメカニズムについて述べることができる。
4. WHO 方式がん疼痛治療法について具体的に説明できる。（鎮痛薬の使い方 5 原則、モルヒネの用量調節の説明を含む）
5. 鎮痛薬（オピオイド、非オピオイド）や鎮痛補助薬を正しく理解し処方を行うことができる。
6. 薬物の経口投与や非経口投与（持続皮下注や持続静注など）を正しく行うことができる。
7. オピオイドをはじめとする症状マネジメントに必要な薬剤の副作用に対して、適切に予防、対処を行うことができる。
8. さまざまな病態に対する非薬物療法（放射線療法、外科的療法、神経ブロックなど）の適応について判断することができ、各分野の専門家に相談及び紹介することができる。
9. 終末期の輸液について十分な知識を持ち、適切に施行することができる
10. 痛み以外の症状や各種病態における苦痛の緩和を適切に行うことができる。
11. 死亡診断書の作成をはじめ、看取りを適切に行うことができる。
12. 心理的反応、コミュニケーション、社会的経済的問題の理解と援助、家族のケア、死別による悲嘆反応などの重要性を認識し、それらに配慮し対応できる。
13. 自分自身及びスタッフの心理的ケアを認識し、それらに配慮し対応できる。
14. 患者・家族の信念や価値観やスピリチュアルな側面を理解し、援助ができる。
15. 医療現場における倫理的側面のもつ重要性を認識し、対応できる。
16. チーム医療の重要性とリーダーシップの重要性について理解し、チームの一員として働くことができる。
17. 臨死期の状態を全人的に評価し対応することができ、加えて臨死期及び死後の家族の心理に配慮できる。

18. 経験すべき症候・疾病・病態

1）経験すべき症候

外来または病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、基本的な検査所見に基づく臨床推論と病態を考慮した初期対応を行う。

a. 体重減少・るい痩
b. 呼吸困難
c. 嘔気、嘔吐
d. 腹痛
e. 便通異常（下痢・便秘）
f. 腰・背部痛
g. 抑うつ
h. 終末期の症候

C. 指導体制

1. 緩和ケア科医師は指導責任者として、ローテート期間を通して研修の責任を負う。
2. 患者の診察、検査、治療に関する直接的指導は主治医（指導医）が行う。
3. 定期的に研修医の研修目標達成の進捗具合を点検し、適切に研修医に指示を与えるか直接指導を行う。

D. 研修方略

1. オリエンテーション

1）研修カリキュラムの説明

2）科の概要

2. 主治医と担当医の指導の下、受け持ちとして数名の患者を担当する。診察、検査、診断、処置などは、すべて指導医・上級医の指導・助言のもとに行う。
3. 病棟業務：上級医の指導の下に患者の診察、評価、対応等を行い、看取りの場合はその実際を体験して配慮すべき点について学ぶ。
4. 病棟回診：上級医の回診に同行してその対応を学ぶとともに、担当以外の患者の状態についても把握する。
5. がんサポートチーム回診：がんサポートチームでフォローしている他の診療科の患者を上級医とともに回診し、一般病棟における緩和ケアの特殊性を学ぶ。
6. 緩和ケア外来：直接的には関与しないことが多いが、見学等によりその実際を学ぶ。
7. ミーティング：毎朝 Ns の報告をもとに主治医・担当医とともに治療方針の検討に参加する。
8. 留意点

1）患者や患者の家族のプライバシーに関わる情報の扱いには気をつける。患者の診療上必要な情報は、担当医や患者のケアに直接関わるスタッフ間でのみ共有すること。

2）患者情報（特に個人が特定されるような情報）を院外に持ち出さないこと。院内でも情報が記録された印刷物やメモリーを紛失しないよう十分気をつけること。

【週間スケジュール】

	午　前	午　後
月曜日	チーム回診	緩和ケア外来（各種相談）
火曜日	チーム回診	緩和ケア外来（リンパ浮腫）
水曜日	チーム介入患者の全症例回診 （カンファレンスを含む）	仮想症例・動画教材などを用いた 緩和ケアの学習
木曜日	チーム回診 緩和ケア外来（症状緩和）	緩和ケア外来（症状緩和）
金曜日	チーム回診	ふりかえり・レポート作成

※上記のスケジュール以外に、退院前カンファレンス（在宅緩和ケアへ移行する患者について地域の医療者と連携するためのカンファレンス）への参加や、患者・家族への病状説明時の同席などがある。

【カンファレンス】

1）病棟で適宜必要な場合に病棟看護師と共に行っているケースカンファレンスに参加する。

2）毎週水曜日に行なっている、がんサポートチームが介入している全症例回診の前に行うチームカンファレンス（午前 9 時 30 分開始）へ参加する。

【勉強会・学会等】

以下のような学習の機会があるため、適宜参加する。

1）日本緩和医療学会、日本サイコオンコロジー学会、日本死の臨床研究会など全国規模の学術集会およびそれぞれの学会・研究会が主催する教育セミナー

2）県内で行なわれる緩和医療関連の講演会・勉強会

3）院内では、がんサポートチームが企画している勉強会や研修会、がん診療連携拠点病院として毎年開催している「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」（PEACE 研修会）